

# 大型クラゲ分布調査

(有害生物出現調査及び情報提供委託事業)

柳 昌之・沖野 晃・村山達朗

## 1. 研究目的

近年、大型クラゲが本県をはじめとして日本沿岸に大量に来遊し大きな漁業被害を与えている。そこで、その出現状況を、調査船「島根丸」、漁業取締船「せいふう」による洋上調査、操業漁船からの聞き取り調査等により把握し、漁業関係者に迅速に情報提供を行い漁業被害の低減に努める。

## 2. 研究方法

### (1) 洋上分布調査

平成 22 年 7 月 26 日～8 月 4 日および 8 月 23 日～25 日に隠岐諸島東方～対馬西方の海域の 19 定点において、調査船「島根丸」により LC ネットを使用して大型クラゲを採集した。採集したクラゲは個体数、傘径または感覚器官の間隔を測定した。

### (2) 洋上目視調査

#### ①調査船「島根丸」

10～11 月に計 3 回、島根県沖合において、船上から目視による調査を実施した。調査は定点から 2 マイルの距離を航走する間、船橋上両舷から目視された大型クラゲを計数した。

#### ②漁業取締船「せいふう」

8 月～11 月の間の全航海において、昼間に実施した。調査は船橋上両舷から、目視された大型クラゲを計数した。

### (3) 陸上調査

漁業協同組合 JF しまねからの来遊状況の聞き取り調査と、入網状況について標本船調査を実施した。聞き取り調査は、平成 22 年 8 月～平成 22 年 12 月まで実施した。標本船調査は、定置網漁業 5 ヶ統に 8 月から 12 月まで、沖合底びき網 8 船団に 8 月から 12 月まで、小型底びき網漁船 3 隻に 9 月から 12 月までの期間、それ

ぞれ操業ごとの入網数（底びき網漁業にあっては操業位置および入網数）、大きさ、被害状況、対策実施の有無について記入を依頼した。

## 3. 研究結果

### (1) 洋上分布調査

2 回の調査ともエチゼンクラゲは採集されなかった。また、LC ネット曳網時および航行中の目視調査（昼間のみ）でも確認されなかった。

### (2) 洋上目視調査

「島根丸」による調査では、10 月 12 日～13 日の調査で 1 個体のエチゼンクラゲを目視確認した。

また、「せいふう」による調査では全く目視確認できなかった。

### (3) 陸上調査

#### ①定置網漁業標本船

10 月上旬に入網が始まり、12 月の調査終了まで少量の入網が主に浜田・江津地区で続き、合計で 110 個体の入網があったが、漁業被害の程度は軽微であった。また 10 月中旬から死亡個体が見られたのが特徴的であった。

#### ②小型底びき網漁業標本船

10 月中旬から入網が始まり、11 月下旬まで散発的に 1～2 個体の入網があり、合計で 10 個体の入網があったが漁業被害の報告はなかった。

#### ③沖合底びき網漁業標本船

9 月中旬から 880・890 漁区で入網が始まり、11 月上旬に 890・900 漁区などで調査期間中最大の 24 個体の入網があり、12 月の調査終了まで散発的な入網が続いた。合計で 78 個体の入網があったが漁業被害の報告はなかった。（調査結果の詳細は、本報告書「平成 22 年度の大規模クラゲ出現状況を参照のこと」